



## 『元気に笑え』

訳詞： 阪田 寛夫

作曲： F. メラー

空を眺めてみんな耳をすませよう  
雲の笑い声が聞こえてくるよ

ふんわりやわらかそうな

まるいちぎれ雲

あっちからこっちから

笑い声が流れて響くよ 空の上で

※アハハ アハハ オホホ オホホ

エヘヘエヘヘ イヒアハホ

アハハ アハハ オホホ オホホ

エヘヘエヘヘ イヒアハホ

(2番略)

くよくよしないで元気に歌おうよ

めめめそしないで楽しく笑え

雲はぼくの仲間 波も友達さ

あっちからこっちから

笑い声が流れて響くよ 空の上で

※くり返し



## 支援的ユーモア

校長 蒲谷 猛

年の瀬を迎え、新年をまもなく迎える時期ですから、本号は「笑い」をテーマにしてみます。

私は小学生の時から阪神ファンですからよく知っていますが、皆さんは、「エモヤん」の愛称で呼ばれる江本孟紀という名選手をご存じですか。解説者や議員としても活躍されていたので、ご記憶の方もいらっしゃるかと思います。この江本投手は、現役の時、ピンチの場面になるほどなぜか笑っているのが、当時、「やる気あるのか」とか「不謹慎」とか、結構話題になったものでした。その頃の私も、「こんな一投で負けるかもしれない大変な局面で笑うなよ。」と思っていた一人でした。でも、現在、重要な場面に対応することが多い立場になってから、いつでも、大変であれば大変なほど「ワクワクする。」と言って笑うことにしているので、このときの江本投手の笑顔の意味が何かわかったような気がしています。

一般的に笑いには絶大な効果があることは、ここで述べる必要もないほどネット等でも散見されることですが、40年間教員として過ごしてきた今、学校教育においては、「子どもと笑いあえること」がすべての教育活動の一丁目一番地だと自信をもって言えます。これはまちがいない。

必要な場面でしかる指導をしたら、最後には必ず笑顔になり子供も笑顔にして指導を終えることは大切です。笑った瞬間に子どもは指導の中身を受け入れることができます。困っていたり悩んでいたたりしている子どもと向き合ったときも、「ふふっ」と笑みを浮かべさせられたら、気持ちの切り替えのチャンスが見えてきます。

「支援的笑い」とか「支援的ユーモア」という言葉を最近知りました。子どもが厳しい表情や苦悩の表情をするときは、目の前に難題となる対象があるときです。支援者の笑いやユーモアが相手の心の機微にフィッティングされた絶妙なものであれば、安全・安心のもとで笑いが生じる場面をつくることができます。笑いによる心理的な「弛緩」は対象と少し距離をとることができ、俯瞰することもできるようになります。この手法は、教師に必須だと思います。

笑いやユーモアが基調となっている集団は、協働的で創造的です。笑いのある関係は、ポジティブな思考連携ができると思います。学年・学級においてもそうですし、大人の組織でもあてはまりますよね。長年、「明日も来なくなる学校」を学校づくりのテーマとしてきていますが、明日も来なくなる「素」は「笑顔とユーモア」であると私は信じています。なので、私は率先して不謹慎でも笑っていようと思います。

新しく迎える年も、全職員と子どもとで笑いあいながら、でも真剣に対話をしていきたいと思っています。保護者の皆さん、地域の皆さんとも一緒です。保護者間、地域間であっても、そうであることを願います。皆様、2025年も大変お世話になりました。どうぞ、良い年をお迎えください。